スポーツは世界のことば

CORE&CHANGE

変わらないものと変えていくもの。
私たちはいつでも、アシックス創業のこの精神を心に刻み、
ますます高めていくことを約束します。
また、変革を進める場合にも、
常にアシックス精神を意識し続けるよう取り組んでいきます。

株式会社アシックス

発行日／2006年6月
発行所／株式会社アシックス　〒650－8555　神戸市中央区港島中町7丁目1番1
©ASICS　Corporation　2006.6.GN.(TP)　Printed　in　Japan

R100
古紙パルプ配合率
100%再生紙を使用

PRINTED WITH SOY INK

CSR Report 2006
CORE&CHANGE

変わらないもの、
変えていくもの。

株式会社アシックス

トップコミットメント

皆様の声を反映させながら、社会への責任を果たします

第52期(2005年4月1日から2006年3月31日まで)に、私たちアシックスグループの海外事業の売上高が、国内事業を初めて上回りました。これは、私たちがグローバル企業として、世界のステークホルダーの皆様に対して負うべき責任が、さらに大きくなったことを意味します。現在、当社の海外生産比率は益々大きくなっており、お客様にご安心いただける優れた商品を安定的に市場に供給するためのサプライチェーンマネジメントが、きわめて重要となってまいりました。それにともない、海外における環境問題をはじめ、労働・安全衛生及び人権問題等への対応がこれから益々重要になると考えております。

これらに対処するため、私たちは、企業活動の根幹にCSR（Corporate Social Responsibility）の考え方を盛り込むことが重要であるとの認識のもと、当社として2冊目となる「アシックスCSRレポート2006」を発行し、ステークホルダーの皆様とのより深いコミュニケーションを図ることにいたしました。

アシックスは、創業者の鬼塚喜八郎が、スポーツによる青少年の育成を通じて日本の発展に寄与することを目的に創業した企業です。鬼塚のおもいは、「すべてのお客様に価値ある商品・サービスを提供する」というものつくりに対する私たちの理念として生きており、サッカー教室や陸上競技大会など全国各地での青少年向けのスポーツイベントなどへの協力という形でも、現在に受け継がれています。法的な責任や倫理的な責任はもちろんのこと、スポーツを通じた社会貢献も自らの責務ととらえ、地道なCSR活動を続けていきたいと考えています。

CSRは、一般に「企業の社会的責任」と訳されますが、ここでの「社会」とは、具体的には社会を構成するステークホルダーの皆様であり、CSRの根本は、ステークホルダーの方々のご意見を聞き、それを「社会からの私たちへの期待」として事業施策に反映させ経営に盛り込むことにあると考えております。この考え方のもと「アシックスCSRレポート2006」では、多くの社外の方々にご意見をいただき、掲載するように努めました。

今後は、今回のレポートを通じてより多くのステークホルダーの皆様に当社をご理解いただきながら、常に良好な関係を維持することが重要であると考えています。

私たちは、スポーツを通じて皆様と喜びや感動を共有できる企業を目指します。今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長
和田清美

index

トップコミットメント ……01

創業者から ……03
鬼塚喜八郎が大切にしてきた心と姿勢

特集　社会のために、アシックスができること
01 「神戸市キャリア教育人材バンク」への協力 ……05
ものつくりの系譜 ……07
六甲山クリーンナップトレッキングの実施 ……09

お客様とのかかわり
02 商品を通じてのコミュニケーション ……10
商品・サービスを通じての価値創造 ……11
スポーツ安全の普及活動 ……13
お客様とのコミュニケーション活動 ……14
海外での活動 ……15

株主・投資家へのアクション
03 経営健全性の維持 ……17

地域、社会とのかかわり
04 社会貢献活動 ……19

従業員とのかかわり
05 働きやすい職場づくり ……21

サプライヤーとのかかわり
06 川上へのCSR展開 ……23

環境保全に対する活動
07 地球環境を守る企業姿勢と活動 ……25
具体的な活動内容と取り組み実績 ……27
環境配慮型商品 ……29

「CSRレポート2005」に対するご意見 ……31

私たちのおもい
2006年度新入社員CSR研修から ……32
スタッフのおもい ……33
NEXT STAGEへ ……34

（写真）アシックス本社1階アトリウム
スポーツ振興の観点から、約1,500m²の
このスペースを、地域住民に開放しています。

会社概要（2006年3月31日現在）

資本金　23,972百万円
従業員　1,221人
事業所
本社（神戸市）※
支社：東京（東京都墨田区）・大阪（吹田市）
営業所：北関東（さいたま市）・広島（広島市）・四国（高松市）
研究所・研修所：スポーツ工学研究所（神戸市）※
海外駐在員事務所：広州（中国）・台湾
関係会社
国内：15社
海外：19社　（アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリア・中国ほか）
※の事業所はISO14001認証を取得しています。

アシックスホームページ
日本　http://www.asics.co.jp/
グローバル　http://www.asics.com/index.html

鬼塚喜八郎が大切にしてきた心と姿勢

昭和24年、神戸の町に当社の前身である鬼塚商会を興した鬼塚喜八郎。現在も取締役会長として執務を行う鬼塚のおもいは、アシックスの企業風土を形づくるとともに、明確な指針となって従業員一人ひとりの心に根ざしています。

アシックスの理念

私が会社を創業したときに強く願っていたのは「スポーツを通して、青少年の育成に貢献したい」というおもいでした。第二次世界大戦で、日本の将来を夢に見ながら戦に倒れた多くの戦友たち。国内での留守部隊を命ぜられ生き延びた私には、彼らの遺志を受け継ぐ責任があります。そのためにも、日本を支える青少年たちに希望を与えられるような、すばらしいスポーツシューズづくりに取り組もうと考えたのです。

最初につくったのがバスケットボールシューズ、次にマラソンシューズをつくりました。いずれもスポーツシューズに必要な要素は何かを考え、トップ選手の要望を聞き、大学や研究機関の専門家の教えを請うなどの努力を重ねた商品です。幸いなことに、これらの商品は多くの選手に支持されるようになり、アシックスのものつくりの根幹である開発力と技術力の礎を築くことができました。そこから、付加価値の高い商品を提供することを目標に、それぞれの競技に合ったシューズを開発し販売するアシックスの歴史が始まったのです。

オニツカからアシックスへと会社が変わるなかで、私が一貫して従業員に説いてきたことは「消費者の皆様のために、アシックスはある」ということです。お客様の求めるものを徹底して追求し、スポーツをする選手や健康を願う方々のおもいの実現に役立つ。それによって、選手たちはさまざまなスポーツシーンで活躍し、スポーツマンシップやスポーツの素晴らしさを社会に拡げてくれます。それこそが、アシックスの願いなのです。

スポーツマンシップと経営

スポーツマンシップには、経営においても重要な真理が含まれています。それは、まず「ルールに従うこと」。日本には憲法があり、神戸市には市民憲章があり、会社には行動規範があります。それをみんなが守ることで、社会は成り立っています。秩序は、一人ひとりが決まりを守ることから生まれるのです。

二番目には「礼儀を重んじること」。人間は一人では生きていけません。他の人と協調するうえで、相手に対して礼を尽くすことが大切です。礼を尽くせば、相手も礼を返してくれる。そこに本当の心の交わりが生まれ、お互いが相手の役に立てる仲間になるのです。

三番目が「最後までベストを尽くすこと」。そのためには創意工夫や努力、そして積極性と情熱が必要であり、それによって人間は、困難に立ち向かうことができるようになります。

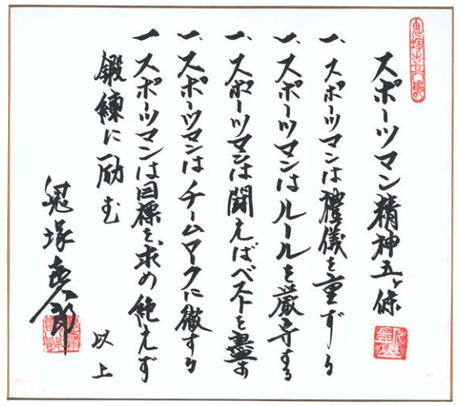
四番目は「チームワークを重んずること」。企業でも、従業員が自分の成績だけを考えていたのでは成り立ちません。お互いが長所を伸ばしあい、短所はカバーしあうことが大切です。

そして最後が「明確な目標を持つこと」。その目標を達成するために困難を克服していくことが自己啓発となり、人間は成長を続けるのです。

多くの社員が集まり、お客様や株主様や、お取引先の方々との関わりにおいて事業活動を行ううえでも、スポーツマンシップは最も大切な要素です。経営の真髄そのものと考え、常に肝に銘じています。

企業は公器であり、社員は公人である

企業の目的は、第一に、お客様に喜んで貰う商品を作ること、そして、その商品が「品質が良く価値があって、安い商品」をつくること、三つ目に適正な利益を上げて税金を納め、社会に貢献することが大切だ、と説いてきました。そして、最後に従業員が一生この企業に勤めたいと思える環境をつくること、と私は



考えます。企業は従業員によって成り立っています。彼らが持てる力を十分に発揮しなければ、企業は目的を果たすことはできません。そのために、経営者は企業を社会の「公器」として、真面目で正直な従業員が報われる経営を行うべきです。

私は、アシックスを徹底した実力主義で、個人の能力を最大限に発揮できる「公器」にしたいと考えてきました。企業は、経営者、株主、従業員によって構成されており、それらが運命共同体として一つの正三角形となることが大切です。昭和34年、その実践のために、私は自分の持っていた自社株の半分を社員に分け与え、2割を新しい社員に譲り、自分の会社という気構えで創業理念の達成に向けてがんばろうと全員に訴えました。それに応えて、今でもグループ全従業員は、常に創業のこの精神を受け継ぎ、世界ナンバーワン企業を目指すという強い意志を持って変革に取り組んでいます。

企業は人財、経営の根幹は人づくり

「ASICS」の社名の由来は、ローマの風刺作家ユベナリスが残した「もし神に祈るならば、健全な身体に健全なる精神があれかし、と祈るべきだ」の句※です。私はこの言葉を、人財育成の根本と考えています。私は合併以前に何度も病に倒れました。とはいえ、公器である会社を倒産させることはできません。万一、私が経営の指揮ができなくなっても、私に代われる人財がいなくてはなりません。また、良い商品づくりにも、まず優秀な人を育てることが先決です。

こう考えた私は、創業当時、自宅のそばに従業員寮を建設して、若い人たちを対象に人財育成に努めました。寮では、毎夜研修や勉強会を行う一方、年功序列制を早い時期に廃止。教育研修によって能力を磨き、面接試験によって評価する方法で、優秀な人財の育成と積極的な幹部への登用を並行して推し進めたのです。

また、商品づくりにおいても前人未到の課題を克服する必要がありました。世界に通用する技術は、職人技だけでなく多くの知識や科学の力を積極的に取り込み、トップ選手のニーズに応えるために努力しなければ完成することはできません。私たちは、大学の先生方やオリンピック選手にいろいろと教えていただきながら、商品開発に関わる従業員の能力向上を図りました。

こうしたなかから多くの逸材が育ち、アシックスのブランドが世界に浸透するたくましい原動力となったのです。メーカーである当社の根幹は人。努力した人、正直な人が報われる企業風土の醸成は、永続的に発展する企業の必須条件でしょう。

地域貢献と自然環境保全

アシックスは、神戸の街で育った企業です。多くの市民の方たちに協力していただき、今日があることを忘れてはなりません。その意味から、寄付やボランティア活動、地域行事への協賛といった企業市民としての責任を積極的に果たすことで、地域社会との共存共栄を図りたいと考えています。

また、自然環境破壊が叫ばれるなか、近隣地域や日本だけにとどまらず広く世界の自然環境保全に努める必要を痛感しています。海外市場での売上高が国内を上回り、名実ともにグローバル企業としてステークホルダーの皆様に対して胸を張れるように、世界の公器として責任ある対応をとらなければなりません。そのためには、私自身の意識が重要であり、おもいを社員に伝える努力も私の責任です。人間に人格や人徳があるように、企業にも社格や社徳があります。環境先進企業へ向けた活動は、ひと時も怠ってはなりません。今後も力を注いでいきたいと考えています。

次世代を担う若い人たちへの言葉

日本人の心を持った人間でいて欲しいと思います。人間はすべて個人として尊重されるべきですが、同時に社会に対して個人の責任を果たすことが重要です。単なる個人思想だけでは、社会はうまく機能しません。日本では最近10年ほど、これに反する社会人が増えているように思います。

礼と道徳という、日本古来の心、国を愛する気持ちを持って欲しい。ルールを守ること、人としてルールに則って、チームワークを持って、仕事の上で関係する全ての人たちに対して礼を重ずる人であって欲しい。それが、企業や地域、お客様、ひいては世界の繁栄につながり、あなた自身を幸せにしてくれるはずです。

※ユベナリスの名句「Anima Sana In Corpore Sano」の頭文字から、ASICSの社名を決めました。

シューズづくりを通じて働く意義とものの大切さを子どもたちに

「神戸市キャリア教育人材バンク」への協力

5校、6回にわたり講師を派遣

最近、働く意欲や将来に対する夢がもてない若い人たちが増えているといわれており、若者に対する職業意識教育が大きな社会問題になっています。そこで、当社が本社を置く神戸市では、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの発達段階に応じて、職場体験や職業技術の熟練者が学校に出向いて授業を行う「神戸市キャリア教育人材バンク」を行っています。当社はこの理念に賛同し、2005年にのべ5校、6回にわたってこのプログラムに講師を派遣してきました。

2005年は、神戸市内の中学校1校と小学校2校の計3校で、スポーツ工学研究所の井ノ原正信が、ミニチュアスポーツシューズづくりを通じて、ものつくりの難しさや楽しさを生徒・児童の皆さんにお伝えしました。以下は井ノ原とサポートについたCSR推進チーム井上聖子のレポートです。

神戸市立筒井台中学校　（参加生徒７８名）

1日目は女子生徒47名を対象に、体育館で授業を行いました。会場が広くて私の声が聞き取りにくかったせいか、作業状況の確認などがいきわたりませんでした。しかし、ミニチュアシューズのかわいさが優先したせいか、生徒たちは一心に作業に取り組み、それぞれの完成品にも特徴があり、非常に有意義なものつくりができました。

翌日は作業教室に場所を移し、男子生徒を対象に授業を行いました。実習でつくった椅子の完成品を見るとなかなかのできばえで、この分なら手際よく作成してくれるものと思っていましたが、実際は女子よりも騒がしく、説明も聞いていなかったのか、「どうするの?どこ?」と聞き返しが多かったものの次第に集中し完成にこぎつけました。

神戸市立菅の台小学校　（参加児童４７名）

小学生には、「切り口・裁ち口部分」などの専門用語が分からないので現物を見せながら進め、スムーズに完成していました。後日、教頭先生にお話を聞くと、自分のつくったミニチュアシューズを見て下さいと、持ってくる児童もいたそうです。「自分自身で作った」証しを見てもらいたいのだろうとほほえましく感じました。色々な世代の多くの人に対して話をしましたが、過去に自分が教えられていた用語や社内で通じる言葉が通じないもどかしさを実感し、分かりやすい表現の難しさを改めて教えられたように思います。

神戸市立長田南小学校　（参加児童３４名）

今回の授業は、まずイチロー選手のスパイクや高橋尚子選手、野口みずき選手の現物シューズの説明からスタート。「なぜこんな構造になっていると思いますか?」といった質問に対して、子どもたちは熱心に考えていました。シューズづくりの工程をビデオで学んだ後は、いよいよミニチュアシューズづくりです。井ノ原は工程を説明しながら「部品をちょうど真ん中に貼るには、どうすればいいと思う?」と、子どもたちにも考えさせていました。シューズができると、子どもたちは見せ合って喜んでいました。授業後の井ノ原の話によると、シューズづくりでは、工程を無視して先走ってしまう人、ていねいに作る人など性格が出るとのことでした。この子どもたちの中から次世代のシューズづくり職人が生まれるかもしれません。

子どもたちの感想文

僕は一生懸命作りました。できたときには達成感を感じ、できばえもよかったのでうれしかったです。家に帰った後も、ずっとミニチュアシューズを見つめていました。井ノ原さんが最後に言われた「自分のはいているシューズを大事にしなさい」という言葉が今でも心に残っています。

ミニチュアシューズを作って、今、自分がはいている靴をどのように作っているか、少し分かることができました。今までは、何も思わずにはいたりしていたけど、苦労しているということも分かったし、靴がどれだけ大事なのかがわかりました。ありがとうございました。これからも靴を大事にしたいです。

シューズづくりを通して3つのことを学びました。まずは、シューズづくりにかける熱い思いを感じました。2つめは、シューズに対する愛情です。自分のこどものように扱っていて、とてもいいものを見せてもらったと思いました。最後にシューズづくりの厳しさを知りました。この経験を通して、今はいている靴を大切にしようと思います。ありがとうございました。

皿の上のドーナツが、新しい衝撃緩衝ソールのヒントに!?

ものつくりの系譜　1

皆さんが使うスポーツシューズには、用途に応じてクッション性、安定性、屈曲性、通気性、グリップ性、耐久性、フィット性、軽量性の8つの機能がバランスよく備わっていることが必要です。そしてこうした機能を進化させ続けるには、単なるカンや経験だけでなく、理論的に裏づけされた手法によって機能の度合いを数値化し、その数値を高める努力が欠かせません。

こうした考えから、私たちは独自に機能を数値化して評価する手法を確立し、試作品の評価結果を常に商品設計にフィードバックさせています。つまり、シューズの機能の数だけ、評価の手法をもっているのです。ところでこういった評価手法を頭に置いて、何気なくまわりを見渡してみると、思わぬところで新しいシューズのヒントを見つけることがあります。

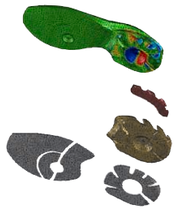
例えば、テーブルのお皿に載っていたドーナツ。ある日、見なれた好物のドーナツを見ていた私は、この形がクッション性の向上に非常に効果的な構造であることに気が付きました。この気付きをもとに、研究室でコンピュータシミュレーションを駆使して誕生したのが、クッション性に優れた新形状ソールの「GEL-HELIOS」なのです。

なにごとであれ、独自の機能評価手法は自分たちだけで正しいと言い張っても世界には通用しません。そのため、国内外を問わずさまざまな学術会議で我々の手法を発表し、世界中の研究者から評価を受け続けています。こういった研究姿勢が評価され、最近では大学の非常勤講師や客員助教授を依頼されることも多くなっています。

言いつくされた言葉ですが「たかがシューズ、されどシューズ」。何万年もの人類の歴史とともにまさに歩んできた小さな道具は、止まることなくさらに進化を続けているのです。その行方を見守りつつ、より高い機能を持った商品を開発するため、これからもさまざまな形の研究開発を行っていきます。

スポーツ工学研究所
機能開発チーム
マネジャー　工学博士
西脇剛史

社外研究機関職務履歴：京都工芸繊維大学客員助教授、三重大学非常勤講師、大阪大学大学院非常勤講師、福井工業試験所アドバイザー、国際バイオメカニクス学会エグゼクティブボードメンバーなど



GEL-HELIOS解析モデル

「ヘリオスクッション」とは

「ヘリオスクッション」のユニークな構造は、西脇がミスタードーナツのフレンチクルーラーの形をヒントに開発。ヘリオスとは「太陽神」の意味で、独特の意匠が太陽の光輪を想わせることからネーミングされました。

“濡れ手のモミガラ”が、メダリストのシューズの原点

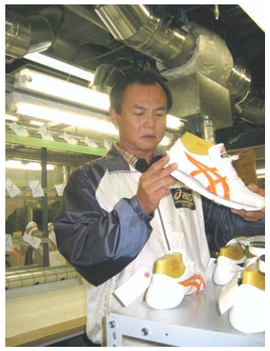
ものつくりの系譜　2

2004年のアテネオリンピックの女子マラソンでは、日本の野口みずき選手がトップでゴールテープを切りました。ゴールした直後に脱いだシューズにキスしたシーンを記憶している方も多いのではないでしょうか。実はあのシューズは、私が手がけたものです。

私は入社以来、トップアスリート約1万人のシューズを手がけてきました。有森裕子選手や高橋尚子選手、そして野球ではイチロー選手のシューズもつくっています。

アテネのマラソンコースは、アップダウンが激しい上に大理石混じりの堅い路面。おまけに暑さ対策で水をまくために、滑りやすいという難コースです。シューズに対する条件も、おのずと厳しくなります。ポイントは衝撃を緩衝しつつ、濡れた路面でもしっかりグリップすること。さまざまな素材を検討した結果、ソールのクッションはウレタンからスポンジに代え、靴底にはモミガラの粉を練りこみました。これは、濡れた手にモミガラがしっかりと貼り付くことから発案したものです。試しに使ってみたら具合が良かったので、採用を決定しました。家で稲作もしている私の強みですね。設計では、選手一人ひとりの足型を計測器で微細に測ると同時に、筋肉のつき方や動き方を手で触って確かめます。いくらハイテクの時代とはいえ、こればかりはコンピュータにだって無理。30年培った職人技で、無機的なデータに人の手で味付けしてやるんです。

選手の足も競技スタイルも、一人ひとり違います。苦労といえば苦労かも知れません。でも、できたシューズを履いて選手が活躍する姿を見ると、こちらもうれしくなりますよ。選手には「メダルがすべてではない。力を出し切って悔いのない試合をしてください」と話していますが、もしかするとこの言葉は自分に言い聞かせているのかもしれません。いずれにせよ、喜んでくださる選手がいる限り、シューズづくりを続けます。



フットウエア事業部
カスタムデザイングループリーダー
グランドマイスター
三村仁司

1974年　一流選手を対象とした特注シューズ製作の専任となる。
2002年　『金メダルシューズの作り方』を株式会社情報センター出版局より出版。
2004年　日経BP社の「日本イノベーター大賞」の「ジャパンクール賞」を受賞。
2004年　厚生労働大臣より、卓越した技能者表彰「現代の名工」を受賞。
2006年　黄綬褒章を受章。

山も体も心もさわやかに ブラッシュアップ

六甲山クリーンナップトレッキングの実施

2005年6月12日、アシックスの労使が合同でトレッキングを楽しみながら、神戸・六甲山のゴミを拾う「六甲山クリーンナップトレッキング」が開催されました。数日前に梅雨入りが宣言され台風も接近していましたが、当日は快晴。社員と家族、お取引先様など総勢40人の参加者が、集合場所の阪急芦屋川駅北の山芦屋公園に集合しました。

リーダーは、当社の重廣恒夫アウトドアマイスター。コースの説明、準備運動の後、さっそく4つのルートに分かれて六甲最高峰を目指しながらゴミを拾って行きます。あるチームは、芦屋ロックガーデンなどを経由して、雨ヶ峠で昼食。その後、七曲りのきつい上りも元気にこなして、六甲最高峰下の広場で拾ったゴミを分別し、神戸市管理のゴミ箱に捨てました。このルートは、六甲山でも最もハイカーの多いトレッキング銀座と呼ばれるところで、集めたゴミは大きなビニール袋5つ分。飴などの包み紙やガラスの破片が目立った半面、空き缶やペットボトル、吸い殻などは以前に比べて少なくなっていました。登山者の皆さんのマナー向上や他の清掃登山活動のためか、これでも全体のゴミの量は昔に比べると、ずいぶん減っていました。

最高峰では全員で記念撮影。その後、かつて灘の港に上がった鮮魚を有馬温泉に届けたという魚屋道（ととやみち）を通り、有馬稲荷で解散しました。その後は、温泉でゆっくりとされた方も多かったとか。普段からトレッキングをされている方にはおなじみのルートではありましたが、初めての参加者の中には、2、3日筋肉痛が残った人もいたようです。

今回のクリーンナップトレッキングでは、男性の参加が少なく、女性のほうが積極的に参加していたのが印象的でした。今後も継続的に取り組んでいく予定です。

多くの人達が四季を通じて親しむ六甲山を、美しいまま次代に遺すことは、神戸に暮らす私たちの義務です。私たちはこの認識のもと、六甲の自然とのかかわりを自らに問い直しながら「六甲山クリーンナップトレッキング」をさらに多くの方々へ広げていきたいと考えています。

アシックス アウトドアマイスター
重廣 恒夫

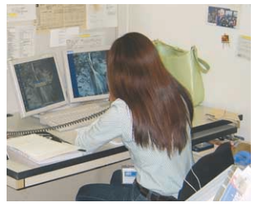
商品を通じてのコミュニケーション

「すべてのお客様に価値ある商品・サービスを提供する」ことをめざし、お客様と共にあるアシックスの実現を、お客様相談室のスタッフは常に心にとめています。

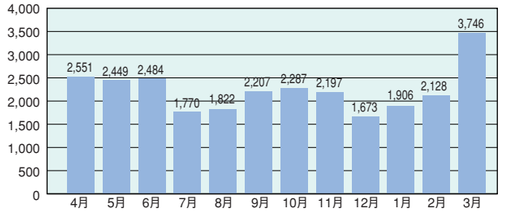
貴重なご意見を商品に反映
お客様相談室

アシックスお客様相談室では、東京、大阪、神戸を拠点に15名のスタッフが電話やメール、お手紙などを通じて、お客様からのお問い合わせやお申し出を受け付けています。2005年度の受付件数は、2万7千件を超えました。内容は、商品の素材や寸法、特徴などについて、販売店について、商品カタログのご請求、商品開発についてのご意見、宣伝に関するお問い合わせ、直販店での接客に関することなどさまざまですが、その一つひとつが明日のアシックスの財産だと考えて受け付けております。

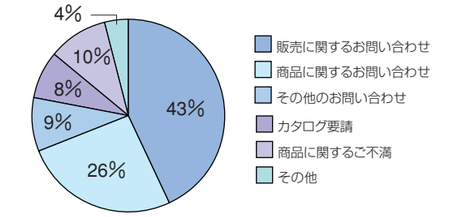
今期は「シューズの中敷に貼ってあるサイズシールをはがそうとしたところ、粘着力が強くてきれいにはがれませんでした」というご意見をもとに、アンケートなどの調査を行った結果、一部の商品を除きサイズシールの中敷への貼付を廃止しました。



2005年4月～2006年3月 項目別お申し出数（単位：件）



2005年4月～2006年3月 項目別お申し出数（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集　計
販売に関するお問い合わせ	1,245	1,060	982	683	705	944	1,059	908	629	791	798	2,086	11,890
商品に関するお問い合わせ	623	633	721	520	493	530	543	564	504	523	566	725	6,945
その他のお問い合わせ	212	231	262	162	170	186	172	253	184	146	185	233	2,396
カタログ要請	200	199	175	135	152	191	153	140	125	208	257	236	2,171
販売に関するご不満	3	2	3	6	3	7	2	8	14	5	5	8	66
商品に関するご不満	191	228	244	205	202	240	258	217	157	160	234	342	2,678
その他のご不満	9	11	8	3	1	1	9	5	8	2	8	8	73
事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
提案	12	10	11	4	10	5	11	14	4	7	11	25	124
その他	56	75	78	52	86	103	80	88	48	64	64	83	877
合計受付件数	2,551	2,449	2,484	1,770	1,822	2,207	2,287	2,197	1,673	1,906	2,128	3,746	27,220

よりよい安全品質のために
お客様からの情報の共有化

お客様の声を社内に伝えるため、月2回、全社員にメールマガジン形式の「お客様相談室レポート」を配信しています。個々のお申し出内容と対処やお申し出に対する各担当者の所感をそえて、業務改善に役立つように配信しています。

また、年2回全国各支社・国内外の工場で、お客様からいただいたお申し出品を展示する「社内品質情報展」を実施しています。お客様からいただいた「不具合商品」を社内展示し、その不具合やご不満の原因の所在や今後の対処、改良、開発や生産の担当者の所感についても記載しています。お客様の声とそのきっかけとなった商品を手に触れることで、よりよい商品づくり、お客様にご満足いただける開発に向けての参考になるよう今後も継続していきます。

商品・サービスを通じての価値創造

お客様が何を望まれているのかを科学的に分析し、その要望にこたえられる商品づくりに努めています。またその商品を安全に使っていただくよう厳密な品質管理、商品に対する説明表示・広告を行っています。

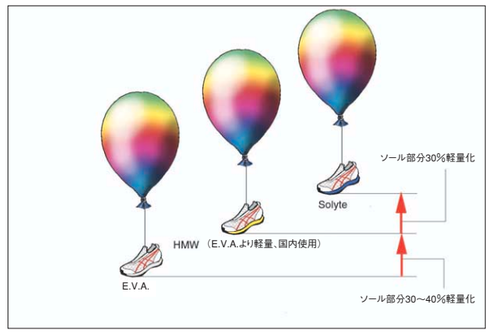
独自の視点から生まれる 新たな価値を提案する商品

■大腰筋強化スパッツ「インナーマッスル」

上半身と下半身をつなぎ、姿勢や脚の動きに大きく関わる筋肉が大腰筋（だいようきん）。「インナーマッスル」は、その大腰筋の強化をサポートする短丈タイツです。スポーツ工学研究所による筋肉の動きの分析をもとに、大腰筋が活動する部分を張力のある生地で覆うなど部位によって生地を使い分け、大腰筋に効率よく負荷をかけるのが特徴です。フィットネスジムなどのエクササイズ時だけでなく、オフィスワークや家事の際にも着用できるよう、ユニセックスタイプ、レディスタイプとも丈の長さが異なる2種類を用意しています。特にスタイルアップや美しいボディラインを目指す女性にお使いいただきたい商品です。店頭でのデューク更家さんを起用したパネルの展示やイメージビデオの放映、インターネットなど多角的なプロモーションの展開によって、たくさんの方々に興味を持っていただいています。

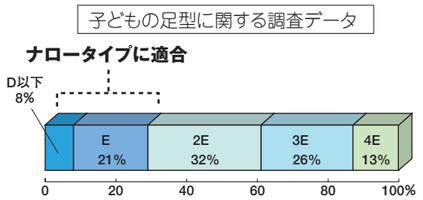
■軽量ミッドソール「Solyte（ソライト）」

一般的にミッドソールなどのスポンジ材は、E.V.A.（エチレンビニールアセテート）と呼ばれる樹脂原料を細かい気泡によって発泡させてつくられています。そのため同じ体積であれば、原料のE.V.A.が少ないほど“軽い”スポンジができます。優れたクッション性などの機能を維持しながら、高発泡を行うことによって原料樹脂の量を抑え、軽量化する。この相反するコンセプトを、アシックスは新たな素材の開発によって実現しました。それが「Solyte（ソライト）」です。



■子ども用スポーツシューズ「ナロータイプシューズ」

成長期の子どもにとって自分に合ったシューズを選ぶことは、安全性の面からも足の発育の面からも重要です。しかし、子どもの足は千差万別です。アシックスは、百貨店を中心に行っている「お子様の足の計測会」などで計測した足型データの分析から、全体の約3割の子どもがE以下の細めの足囲であることに着目。データに基づいて専用の細い足型を開発し、ナロータイプシューズを2004年の8月から販売しています。ナロータイプシューズは、従来品と比べて足幅を8mmから10mm細く設計することで足幅の細い子どもの足のフィット感を高め、シューズ内の足のぐらつきを抑えます。キッズシューズでは、ベビー、ミニ、ジュニア別のコレクションと上履きで、ナロータイプシューズを展開し、足幅の細い多くの子どもたちに愛用いただいています。

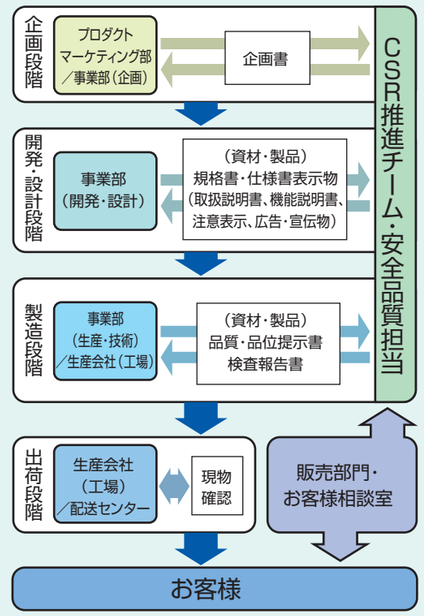


独自の基準でチェック 厳密な品質管理の実施

メーカーとしてお客様に安全かつ快適に商品をお使いいただくことは一番重要な事項です。商品企画から開発、設計、製造、品質管理を経て、出荷されるまでの主な段階で、製品安全・品質向上対策の適合状況、及び商品・広告宣伝物等の表示について、右のフローチャートに基づくPL(製造物責任)審査を実施しています。

独自の基準でチェック 商品に関する表示・説明、広告

幅広い世代のお客様にお使いいただく商品や、競技用の商品は、誤って使用されない配慮が重要です。お客様に正しく、安全に商品をお使いいただけるように、資材調達から廃棄までの工程に関連する部署が情報を共有、連携し、適正で分かりやすい取扱説明書やカタログ、広告表現を心がけています。



※資材・製品の安全性・品質に関しては、法規制・業界基準・自社基準に定められた試験実施の確認、その判定結果に基づく指導を行っています。また、有害化学物質に対する独自の管理基準を定めて、運用を進める一方、PL審査の一環として、商品のモニタリングも行っています。

スポーツ安全の普及活動

余暇時間の増加や健康志向の高まりとともに、スポーツを楽しむ人が増えています。安全に、そして安心してスポーツを楽しむには、安全管理と安心指導に対する認識を深めることが重要です。当社は、スポーツの安全や商品の正しい使用法に関する情報発信などを通じて、スポーツ安全の普及に努めています。

市民ランナーのトレーナー役
ランニング能力測定

スポーツ工学研究所では、2006年1月から一般ランナーの方々を対象にランニング能力測定を開始しました。足型や下肢アライメント（骨格の配列）、筋力やランニングフォーム、全身持久力など、ランナーの皆さんがトレーニングや競技活動を快適に行っていただく為のことがらについて、研究所ならではの専門的な測定器を用いて計測・分析するだけでなく、その結果をもとにしたトレーニングのアドバイスを実施。老若男女、ランニングレベルを問わず、各地のランナーの方々が参加されています。

人工気象実験室での計測

正しい理解と安全のために
母親向け少年野球入門小冊子を配布

「子どもが野球を始めたいと言っているが、母親としてどうすればよいのかわからない」というお客様のご意見にお応えし、子どもたちに安全に野球を楽しんでもらうために、小冊子『子どもが野球を始めたいと言った時に読む本』を全国で配布しました。野球に対する正しい知識と心構え、用具選びとお手入れの方法、そしてユニフォームの着かたなどを、ストーリー仕立てでまとめています。文章とイラストの制作は、女子大学生に協力してもらい、野球をまったく知らないお母さんにもわかりやすく仕上げました。保護者の方々だけでなく少年野球指導者、スポーツ店、さらに消費者啓発書としてACAP（社団法人 消費者関連専門家会議）にも認めていただき、全国の消費者生活センターでも配布されるようになりました。2006年春には野球のルールやスコアブックのつけ方を加えた続編も配布し、野球に対する正しい理解と安全の普及にさらに貢献していきます。

●お問い合わせ先　アシックス本社　お客様相談室
電話　078-303-2233

お客様とのコミュニケーション活動

子どもの健やかな成長に必要なのはどんなシューズか、といった保護者の方々の疑問や、どうしたら楽しく歩けるかといったご質問を、直接的なお客様とのコミュニケーションによる意見交換からいただいて、商品開発に活かしています。

正しい靴選びをアドバイス
子どもの足の計測会

どんなに良い靴でも、サイズや形などが足に合っていなければ機能が活かせず、歩き方や運動量にも影響が出てきます。まして成長期の子どもの場合には、シューズと足のマッチングはとくに重要です。当社は全国各地の百貨店などで、足を計測しシューズのマッチングのチェックを行うイベントを実施。多くの子どもたちのシューズ選びに役立っています。2005年度は、70回以上開催しました。また、子どものシューズ選びの大切さを理解していただくため、子育て中の保護者の方を対象とした「子どもの足の特徴と靴選び講座」も18回開催しました。

百貨店での計測会と講座開催

楽しむウォーキングを提案
従業員による健康啓発運動

フットウェア事業推進部の池田憲昭は、百貨店や専門店などでのウォーキング講習会を通じて、正しい歩き方やシューズの選び方などの講習を行ってきました。その活動が健康啓発活動として評価され、各地の講習やテレビ、ラジオ、新聞・雑誌などで紹介されはじめたことから、ウォーキングシューズのアピールを兼ねて商品名にちなんだ「サルティス池田」の名で活動を拡大しています。2005年には神戸市による震災復興10周年記念事業である神戸健康ウォークへの協力や、神戸空港開港記念ウォーキングイベントに協力しました。2006年3月には東芝EMIから、日本初のウォーキング専用CDをリリースし、新しいウォーキングの楽しみ方「フュージョンウォーキング」による健康で快適な生活を提案しています。

サルティス池田

ウォーキング専用CD

●ウォーキング専用CDのお問い合わせ先　東芝EMI　STI部
電話　03-5512-1550

海外での活動

1956年のメルボルンオリンピック、日本選手に陸上競技、バスケットボール、レスリングの3競技でシューズが使用されたのが、アシックスの世界へのデビューでした。それ以来、販売においても、生産においても、常に世界を目指し、2005年度には海外売り上げが国内売り上げを上回りました。このような環境の中、さまざまな形でのグローバル経営を実現しています。

当社の姿勢を世界の方々へ
メディアに対する取材協力

海外での事業拡大にともない、海外での当社社名やブランド、商品の知名度が上がり、海外のメディアからの取材を受けることが多くなりました。中でも高い評価をいただいているランニングシューズの商品企画、研究開発や生産工程は高い関心を集め、世界のマスコミから注目を集めています。世界的なネットワークをもつ自然科学やテクノロジー専門ケーブルテレビ局の「DISCOVERY CHANNEL（ディスカバリーチャネル）」もその一つです。スポーツ工学研究所や本社ばかりではなく、中国・広州地区の協力シューズ工場まで数日間におけるロケ撮影を敢行し、当社のシューズ開発や生産工程についての番組が2005年末に欧州で放映されました。また、アメリカのランニング専門雑誌の「RUNNERS WORLD（ランナーズワールド）」も取材のために来日しています。これらのメディアを通じて、当社のものつくりに対する情熱を世界の皆様にお伝えしています。

中国で取材を受ける和田社長

スポーツの喜びを中国の方々に
「中国・厦門（アモイ）国際マラソン」大会への協賛

世界中で販売されているスポーツ用品の多くは中国で生産されていますが、中国国内での消費はそれほど多くはありません。当社商品にたずさわっている中国の人達にもスポーツのすばらしさをお伝えすることでスポーツ文化へ寄与したいと考え、2005年3月に行われた「2005厦門（アモイ）国際マラソン」大会に協賛しました。この大会は、約1万8千人が参加する大規模なマラソンで、フルマラソンから5キロまで4種目が行われました。当社は、大会開催にあわせて足型計測サービスを実施し、足とシューズのフィッティングの重要性をランナーにアピール。より楽しく、安全にランニングしていただくための情報提供を行いました。

参加者への足型計測サービス

グローバル市場でショップ展開
オニツカタイガーショップの展開

「オニツカタイガー」は、会長の鬼塚喜八郎がはじめてスポーツシューズを製造した1949年から、株式会社アシックスを設立した1977年に至るまで製造していたシューズブランドで、2002年9月から新たにライフスタイル市場向けのスポーツカジュアルシューズとして本格的に展開し、アパレル、グッズも加えて全世界でのブランドイメージの確立と向上を目指し、現在では若者を中心に注目を集めています。

今後は、米国、欧州、豪州のグループ会社との密接な連携を図りつつ、地元セレクトショップとのタイアップによるフランチャイズ展開も含め、出店計画を進めていきます。

オニツカタイガー　ロンドン店

現在の『オニツカタイガー』ブランドの海外店出店状況

- ●オニツカタイガー韓国4店舗
- ●オニツカタイガーシドニー
- ●オニツカタイガーパリ
- ●オニツカタイガーロンドン

よりスピーディーな意思決定を実現
国際テレビ会議システムの導入

2005年8月よりフットウエア事業部にて海外子会社とのテレビ会議を導入しました。主に、アメリカ、オランダ、オーストラリア、日本の4カ国間で実施していますが、設備さえあればさらにあらゆる地域と接続が可能です。これまで海外出張が必要だった国際会議をテレビ会議に置き換えることにより、効率よく、必要に応じていつでも即座に開始できることや、限られた出張者だけでなく関係者全員が参加できる点など予想外のメリットも多く、海外の子会社でも非常に有効なコミュニケーション手段として重要視されつつあります。今後はインフラの整備と時差による負担の緩和を図りつつ、スムーズな意見交換とスピーディーな意思決定によるお客様ニーズへの対応力強化と、さらなるグローバル化の実現に向けて取り組んでいきます。

テレビ会議システムによる意見交換

経営健全性の維持

当社では、従来から推進している行動規範の社員への浸透をさらに深めるとともに内部統制環境の充実を図り、今後もステークホルダーの皆様への情報開示とともに、よりよいコミュニケーション環境構築に向けてグループとして取り組んでまいります。

グループ全役員と従業員を対象に
行動規範と自主行動基準

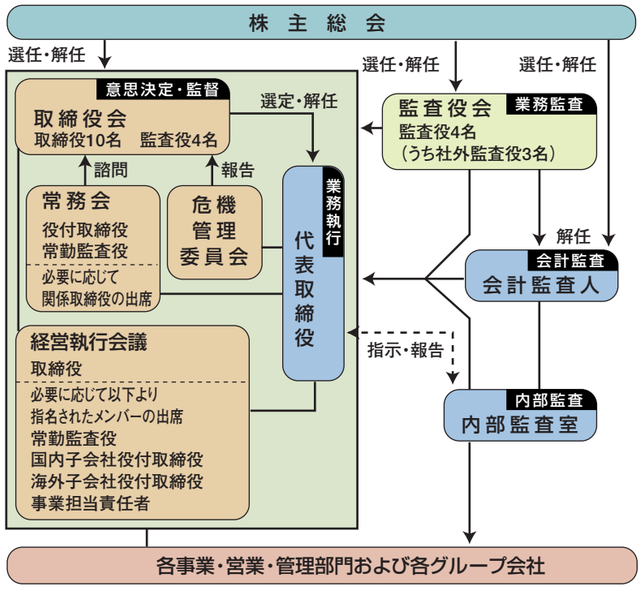
2003年に当社グループのすべての役員（これに準ずる者を含む）および従業員が、企業としての社会的責任を深く自覚し、あらゆる企業活動の場面において関係法令の遵守を徹底し、社会倫理に適合した行動をとることが当社の健全な発展のために不可欠であるとの認識の下に、従業員が日常の業務遂行において遵守すべき事項を「アシックス行動規範」として定めました。また、すべての役員および従業員の企業活動、あるいはステークホルダーとの関係に適用する行動基準を21項目の「アシックス自主行動基準」として制定しています。その内容は、当社のホームページで広く公開しています。

http://www.asics.co.jp/corp/model.html
（トップページ＞会社案内 ＞行動規範・自主行動基準）

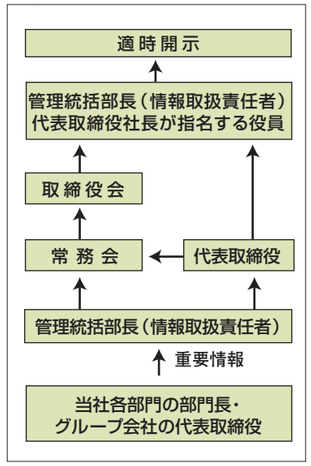
内部統制環境を充実
コーポレート・ガバナンス体制と情報開示

企業価値を継続的に高め、株主をはじめ、すべてのステークホルダーから信頼される会社であり続けるために、スピードある透明性の高い経営を実現すべくコーポレート・ガバナンスとしての経営管理体制を整備しています。また、株主の視点を経営に反映させるとともに、企業経営に関する監査機能・内部統制の充実、コンプライアンスの徹底、経営活動の透明性の向上に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制



適時開示のフロー



2005年度の実績
経営・財務指標

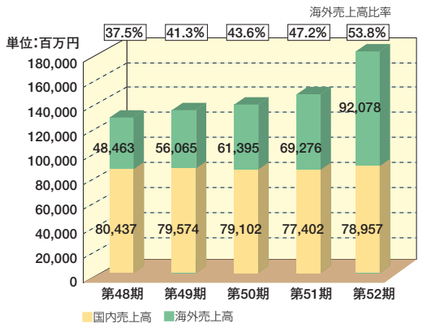
2005年のスポーツ用品業界は、トリノ冬季オリンピックの開催や健康志向によるスポーツへの関心の高まりが見られ、おおむね堅調に推移しました。

このような情勢のもと、当社グループは、シューズを中心としたランニング事業の拡大を目指し、ニューヨークシティーマラソンのスポンサーとして大会役員等にシューズ、ウエアを提供するなど、「アシックス」ブランドのイメージの向上を図るとともに、「オニツカタイガー」ブランドの直営店を国内外にオープンするなど、グローバル市場での事業展開を行いました。国内においては、「裸足」のような感覚で歩くことができる「ハダシウォーカー」の品揃えの拡充、ウォーキングイベントの開催、デューク更家氏を起用した販売促進活動などにより、フィットネスウォーキングシューズのイメージの向上を図りました。

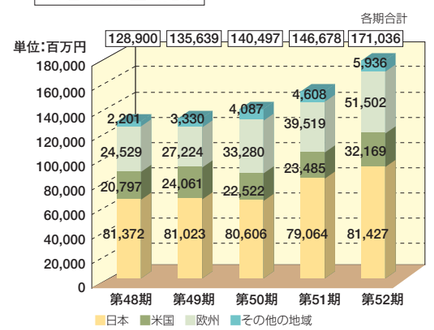
また、子ども特有の足の動きや骨格などの研究に基づく子ども用シューズの商品アイテムの拡充と店頭などでの販売促進活動を行い、売り上げの拡充を図りました。

トリノ冬季オリンピックでは、子会社であるアシックスイタリアS.p.A.がオフィシャルスポンサーとなり、当社グループのイメージの高揚およびブランドの浸透に努めました。

国内海外売上高推移



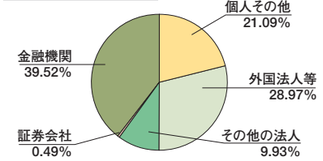
所在地別売上高推移



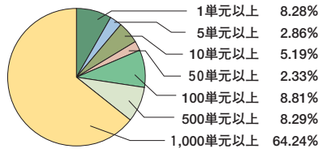
株式状況

発行可能株式総数	790,000,000株
発行済株式の総数	199,962,991株
株主数	17,151人（前期末比7,125人減）

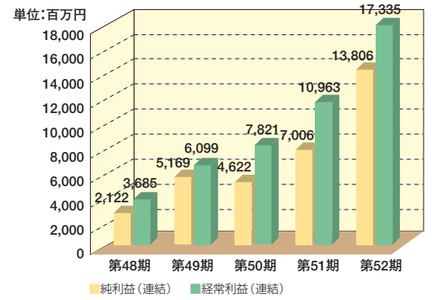
分布状況（所有者別）



分布状況（所有数別）



利益推移



詳しい財務情報は、当社ホームページの「財務情報ページ」をご覧ください。
http://www.asics.co.jp/corp/financial_02.html

社会貢献活動

私たちは、社会貢献活動を地域への寄付やボランティアにとどめるのではなく、事業の延長線上の活動と考え、トップアスリートだけでなくスポーツを愛する一般のお客様への支援も視野に入れています。また、スマトラやパキスタンの震災に関して、従来の寄付活動の他に、海外で活躍するNGOへの支援として、ジャパン・プラットフォームを通じて支援活動を行っています。その他、企業間のコミュニケーションが新しい商品づくりのきっかけになることを考えて「スポーツ工学研究所」への見学受け入れや研究者との交流も進めています。

障がい者アスリートをサポート
パラリンピックへの支援

4年に一度、オリンピックの直後に開催されるパラリンピックは、身体に障がいのある世界のアスリートのための“オリンピック”です。2006年2月にトリノで行われた第20回冬季オリンピック大会では、当社の子会社アシックスイタリアS.p.A.がオフィシャルスポンサーに引き続き、トリノ冬季パラリンピック大会のオフィシャルサポーターとして大会を支援しました。約2,500人の大会役員やボランティアにウエアやシューズを提供し、雪上や氷上といった厳しい条件下での競技の円滑な運営に寄与しました。

torino 2006™
Official Sponsor

NPO・NGOとの協働活動
パキスタン震災支援

パキスタン北部で発生した地震震災に際し、緊急支援物資として防寒用ウエアを送りました。内容はウォーマージャケット、グラウンドコートなどで、ジュニアサイズからメンズサイズまで約5,000着を日本のNPO「アジア協会アジア友の会」と「ジャパン・プラットフォーム」の協力を得て、2005年11月末にカラチ経由でパキスタンへ送りました。物資の分配は現地NGOが取り仕切り、支援の行き渡っていない地区へ重点的に分配されました。これに対して、現地NGOの「パキスタンアジア友の会(PAFS)」の代表者が2006年3月14日に来社。「パキスタンの国民は、必要な時期に必要なものを用立ててくださった和田社長を代表とするアシックスの支援を、決して忘れることはありません」との言葉をいただきました。

当社ウエアを着たパキスタンの子どもたち

エンジニア同士の意見交換
ホンダの若手技術者との交流

「CSRレポート2005」(P.7)に掲載した当社スポーツ工学研究所の紹介記事がきっかけで、本田技研工業の若手技術者がスポーツ工学研究所を訪れ、当社技術者と意見交換を行いました。また右記のご意見をいただきました。

参加された方のご意見(要旨)

・シューズづくりの苦労を知った

スポーツ選手のシューズよりも、老若男女多くの方を対象とした製品の開発に、データ収集、分析など多くの苦労があることを知った。外反母趾に対応できる商品もラインナップされており、知識の幅も広がった。帰宅したら、さっそく子ども達の運動靴を見直してみることにしたい。

・ノウハウを業務に活かしたい

ランニングシューズには、屈曲性、安定性、フィット性など定性的な性能が多く要求される。アシックスでは、こうした要素を数値化する工夫によって、優れた製品を開発したという。ポイントは、既成概念にとらわれないことと、詳細な事象解析にあるとか。私も業務で定量化が困難な事柄を扱っているが、さっそく今日の話を応用してみたい。

地域の危機に際して
震災ウォークへの参加

1995年1月17日の阪神・淡路大震災の経験と教訓をいつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりをPRするために兵庫県が行った「ひょうご安全の日のつどい」のメモリアルウォーク「災害時帰宅困難者徒歩帰宅訓練」にモデル企業として参加しました。

先の震災は出勤前の発生であり、通勤途中や勤務中に発生した場合には当時の経験が活かされないことが予想されるため、今回は就業中に震災が発生したと想定して参加しました。

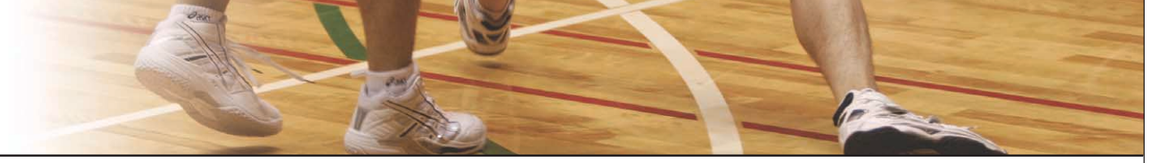
社員を適切に安全に帰宅させることは、企業にとってBCP(緊急時事業継続計画)上の重要課題です。当社は、従業員の家族、自宅の安全確認を最優先にしながら、スムーズな業務復帰を図る訓練と捉え、防災、安全対策の一環としての経験値を高めました。この模様は、テレビニュースや新聞、県の広報番組でも紹介されました。

企業による災害等への緊急支援活動に関して

一昨年のスマトラ島沖地震・津波や昨年のパキスタン地震による被災者支援事業の展開にあたりましては、アシックスグループ各社を挙げてのご厚志を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。企業による専門分野におけるNGOへの緊急支援につきましては、即効かつ有益なものになっています。ジャパン・プラットフォームは、人材・技術・物資・資金による企業CSRと人道支援活動の現場を結ぶリソースのハブとして、政府、経済界及び24の加盟NGOとともに歩んでおります。

Beyond the Border、現場から目を背けず、皆様のご厚志を支援活動に活かして参ります。

ジャパン・プラットフォーム　事務局長　**高松幸司**



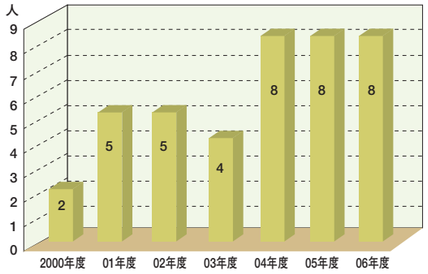
働きやすい職場づくり

Diversity（多様性）社会を目指しての行政や企業の活動が活発化しています。性別、人種、宗教の違いを超えて、協働していく社会の実現に向けて、私たちもさまざまな取り組みを始めています。また、永年勤続し、会社のために尽くしていただいた方々への退職後の生活設計のお手伝いも地域のNGOと協働でスタートさせました。

子育てと仕事の両立へ
次世代育成行動計画

仕事と育児の両立によって働きやすい環境を作ることで、すべての従業員が能力を十分に発揮できるようにするために「次世代育成行動計画」を策定し、さまざまな施策を導入しています。この行動計画では2007年3月31日までに、育児休業の取得状況を男性社員1名以上、女性社員取得率70%以上とすることなどを定めています。当社は女性社員の育児休業の取得率（取得権利がある人が実際に取得している割合）は99.3%ですが、男性の育児休業取得者はまだいないため、利用促進のための啓発活動を図っていきます。また、育児休業期間のうち3日間は賃金を支給する、保育園に入園後「ならし保育期間」として1ヵ月の育児休業の延長するなど、法律を上回る制度も導入し、ワークアンドライフバランスの実現を目指しています。

育児休業取得者数



親の姿から働く意義を学ぶ
「子ども参観日」の実施

2005年4月の次世代育成支援対策法施行を受けて、2005年8月に仕事と子育てを両立できる職場環境づくりに向けての行動計画を策定しました。「子ども参観日」はその一環です。これは従業員の子どもたちを会社に招き、親たちが働く実際の姿を見せることによって、働くことの大切さや意義についての認識を深めてもらうことを目的に企画しました。最近、働く意欲が不十分な若者や、夢を持てない子どもたちの増加が社会問題となっていますが、この活動の実施によって従業員一人ひとりが、子どもたちと「働く」ことについてのより良いコミュニケーションを図ることを進めてまいります。

スポーツシューズの構造について説明を受ける従業員の子どもたち

協調と切磋琢磨を軸に

労使による会議風景

アシックス労働組合（ASSIST）は、労使経営協議会、労使協議会の定例開催や各職場での安全衛生委員会等などを通じて、組合員だけではなく、組合員が属する会社の経営の透明性や労働環境の改善、社会貢献活動への取り組み、セクシャルハラスメントに対する対応、経営品質向上への取り組みや男女平等参画、次世代育成支援等などについて活発で忌憚のない提案や意見交換を行い、労使が切磋琢磨して社会からの要望や従業員満足の要望に応えられるよう良好な関係を構築し推進しています。 2006年度に改定された新賃金制度においては、2年以上におよぶ労使合同のプロジェクトを反映させ、透明性・納得性・公平性のある制度の導入を実現し、グローバルな事業展開に必要な処遇制度の構築に取り組みました。

また、活動方針として「私たちの会社を『良い会社』にする」を掲げ、上部団体やスポーツ関連労組、友好労組との連携や情報交換によるベンチマーク、情報収集、積極的な外部交流やセミナー参加等などを通じて、アシックスの企業価値と持続可能性を高めることによる労働環境の維持・向上を目指した活動を推進しています。

アシックス労働組合（ASSIST）
委員長 西脇 宏

NPOと企業で躍進する地域づくりを!

アシックスという社名に込められた「躍動する精神」は、従業員ならびにCSR推進チームの方々と接する中で強く感じた貴社の理念でした。今回、コミュニティ・サポートセンター神戸が地域活動のすすめ「出前講座」を企画し、貴本社会議室で開催させていただいたところ、参加された皆さんは19名と少数でしたが、自分の可能性の追求とスポーツを通じた地域貢献の理念が一体となっており貴社の活力の源泉をみることができました。地域の「子育て／子育ち教室」など仕事の延長線上で無理なく楽しみながら地域活動をされている事例や、会社としてのサポートが見事に調和した“伸びやかな会社人”に触れることができ、地域の新しい人材が見え大いに希望を抱きました。

またそのときに貴社のアトリウムを使った「地域フェアー」の共同開催やスポーツを通じた地域の子育て活動などが提案され、ソフトプログラムの具体化にわくわくしている次第です。これからも従業員の方にもう一つの活躍の場面を紹介する「地域活動サロン」など定期的に開催出来ればと思います。会社で培われた高い技能を居住地域で活かしていただき“躍進する地域”をNPOと共に創造していくパートナーとなってくださることを期待しています。

特定非営利活動法人
コミュニティ・サポートセンター神戸
理事長 中村 順子

川上へのCSR展開

私たちは、メーカーとして、サプライチェーン上に、生産、物流、販売という3つのステークホルダーとの関係を持っています。このうち、生産サイドのステークホルダーは、海外委託生産先が増加する中で、とくに中国、東南アジアに集中しています。これら委託生産先でのステークホルダーである労働者の方々の労働環境に関しても配慮が必要になっています。そのため私たちは各委託生産先の労働環境、労働条件の改善のため、「アシックス業務委託先管理方針」の遵守をお願いし、監査を行っています。

範囲の拡大と充実を目指す
サプライヤーへのCSRの浸透

シューズ工場については、2003年から2005年のはじめまでにCSR推進チームによる監査をほぼ終了しました。2006年3月末現在、アパレル工場の状況確認を重点的に進めており、バッグや用品関連の工場監査を開始する予定です。私たち自身で内部監査を行いながら、利害関係のない独立監査会社による外部監査も行っています。たくさんの目による監査結果をもとに、透明性を高めながら、問題点の是正を進めています。

職場の人権や労働安全・衛生などの改善に向けての工場の取り組みに対して、従業員の方々からは「工場のリーダーたちが自分たちの仕事や生活面の問題について、タイムリーに対策を講じており、仕事場の衛生環境も改善され安全保護具も提供されています」との意見が聞かれるようになりました。

海外の生産工場

中国の工場で行われている社員教育

取引先の労働環境を適正管理
FLA（公正労働協会）への加盟

当社は、2005年6月に日本企業として初めてFLA（公正労働協会）に加盟しました。FLAはグローバルレベルでの労働者権利の保護と労働環境の改善を目的とする国際団体です。2005年度はフットウエア事業部2工場で監査が実施され、いくつかの問題点が判明し、適正な是正処置を施しました。2006年度はアパレル事業とエクィップメント事業の追加加盟を予定しています。

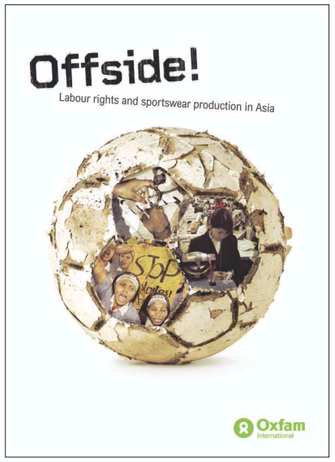
また、FLAによる監査に加え、CSR推進チームによる監査を続けています。2005年度では、フットウエア22工場を計27回訪問、アパレル31工場を計37回訪問し、内部監査を行い、労働環境の改善を進めました。

http://www.fairlabor.org/

FLAの基準に基づく工場監査風景

委託生産における企業責任を果たす
NGOとの協働

スポーツシューズ、ウエア、グッズのカジュアル化、ファッション化が進み、また、販売がグローバルに広がることで、アシックスの生産状況は様変わりしています。人権、労働関係の国際的NGO（OxfamやCleanClothes Campaignなど）活動の活発化、労働者への啓発により、お客様の社会問題に対する意識が高まり、購入する商品の選別基準も「ブランド」や広告による企業イメージから、「企業の真の姿」へ移りつつあります。生産現場の労働環境や働く従業者の姿がお客様に見えない以上、メーカーは責任を持って、その部分を担保しなくてはなりません。こうした課題に対して責任をもって対応するために、私たちはNGOなどとの協働による透明性の確保を進めてまいります。



http://www.oxfam.org.au/

Oxfamからの当社に対するコメント

アシックスの労働者権利問題について

数年前まで、アシックスの労働者権利問題に対する取り組みはあまり見られませんでした。しかし、現在は下記の様な積極的な姿勢が見られます。

- **労働組合やNGOとの対話に積極的です。また、これらの団体と協力し、労働者権利の教育を進めることに関しても意欲的です。**
- **サプライヤーとコミュニケーションを取り、国際労働基準の遵守を求めるとともに、違反事項の発見とその改善を図っています。**
- **一部のサプライチェーンにおいて、FLAの監査プログラムを実施しています。**

このような活動が実施されている一方で、アシックスは工場の所在やその監査結果などを公表しておらず、サプライチェーンにおいて、労働組合権の尊重がどれほどなされているかは判断し難い部分があります。我々は、労働者が自らの権利を認識し、それを主張できるよう、アシックスが労働組合や労働者の権利保護を主張する団体と密に協力しながら、前向きな活動を続けていくことを願っています。

また、企業はサプライヤーに対し、発注する際のビジネス慣行が、労働者の権利侵害を誘発しないようにする必要があります。

ティム・コナー
オクスファム　オーストラリア
労働者の権利アドボカシー調整員

オクスファムオーストラリアはオーストラリアの地域に密着した、
独立非営利、非宗教的な支援組織です。

地球環境を守る企業姿勢と活動

当社では、環境保全活動が企業の重要な社会的責務の一つと考え、地球規模での環境活動に積極的に取り組んでいます。

アシックス環境方針

アシックス環境方針

2001. 8.22制定
2003. 2. 1改定
2005. 4. 1改定

●理念

アシックスは、環境保全活動が企業の重要な社会的責務の一つであることを認識し、
地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために行動する。

●方針

(1)アシックスグループにおける環境マネジメントシステムを拡大、整備し、権限と責任を明確にすると共に、地球規模での環境保全を推進する。
(2)あらゆる企業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、グリーン購入、汚染防止など地球環境への負荷の低減に取り組む。
(3)企業活動において、あらゆる国や地域での環境関連の法律、規制、協定などを順守するとともに、より一層の環境保全に努める。
(4)あらゆる商品及びサービスにおいて、企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り・研究開発に努める。
(5)環境監査を実施することにより、環境マネジメントの継続的改善を図り、企業の社会的責任を果たす。
(6)アシックスグループ内外の広報活動、環境教育などの機会を通じて環境保全に関するグループ全従業員の意識の向上に努める。
(7)企業の社会的責任の一つとして、環境保全活動の取り組み状況を積極的に情報公開し、ステークホルダー(利害関係者)とのコミュニケーションを図る。

代表取締役社長　和田　清美

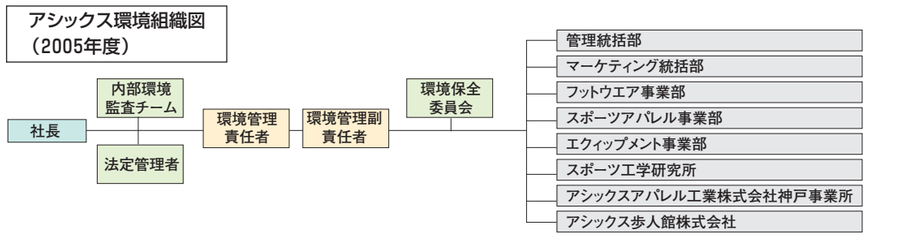
2001年に制定した「アシックス環境方針」を、ISO14001　2004年度版の導入に合わせて2005年4月1日に改定しました。

環境目的及び目標（2005年度）

企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り及びサービスの研究開発に努める	・環境配慮型商品及びサービスの研究開発（217点） ・環境配慮型商品基準の整備
電気使用量の削減	・電気使用量2004年度比　5%削減
ガソリン使用量の削減	・ガソリン使用量2004度年比　5%削減
紙使用量の削減	・紙使用量2004年度比　5%削減
廃棄物量の削減	・廃棄物量2004年度比　5%削減 ・間接的な廃棄物発生量2004度年比　30%削減
グリーン調達・購入の向上	・グリーン調達の現状把握 ・@officeシステムを利用したグリーン購入対象商品購入の徹底
業務の効率化を図る	・業務のIT化とシステムの活用
環境保全活動取り組み状況の公開	・CSR報告書発行と情報公開

環境保全組織体制

社長をトップに、全社を横断する組織体系で取り組みを進めています。



環境保全活動　**http://www.asics.co.jp/corp/environment.html**

環境意識の向上を呼びかけ
ビーチサッカー大会での環境アピール

2005年9月4日に開催された「第4回白浜ビーチサッカー大会」で、当社環境保全活動の紹介と環境配慮型商品の展示を行いました。これは大会の趣旨の一つである「全国の自然環境の保全・育成」に賛同したものです。会場では「CSRレポート2005」を配布するとともに、環境配慮型商品として分別廃棄を可能にしたスポーツスタイルシューズ「SEED」の展示を行いました。最近の砂浜はゴミなどで汚され、ビーチサッカーやビーチバレーなどを行うのに危険がともなうところもありますが、こうした大会への参画を通じて、少しでも環境保全意識の啓発に貢献していきたいと思っています。

環境配慮型商品等の展示

環境イベントへの参画
環境フェスティバル21に参加

2005年11月12、13の両日に大阪の万博記念公園で開催された「環境フェスティバル21」に参加しました。この催しは大阪府と吹田市、読売新聞社などの主催により「地球温暖化防止のために〜いま、一人ひとりができること〜」をテーマに行われたものです。12日には当社ウォーキングアドバイザーであるデューク更家氏のウォーキングセミナーが開催され、デュークさんと参加者の皆さんが一緒に、健康的で環境にもやさしいウォーキングを楽しみました。また、ブースでは環境配慮型のシューズやウエア、用具などを展示し、当社の環境配慮型商品をご紹介しました。今後も地域の環境保全活動に、積極的に協力していく予定です。

展示物を見学するお客様

発光ダイオードを採用し省エネ
歩人館に省エネタイプの看板

ウォーキングシューズ専門店「歩人館」の吉祥寺通店では、看板の光源に発光ダイオードを採用することによって、従来の蛍光灯に比べて電気使用量を約5分の1に削減しました。省エネルギー化によって温暖化の原因であるCO_2の排出量を抑えた、環境にやさしい店舗です。その他に、発光ダイオードは寿命が長く交換もいらないため、使用済み蛍光灯のように廃棄物が発生しないメリットもあります。今後採用をふやしていく予定です。

電気使用量の比較

発光ダイオード	1,188kw
蛍　光　灯	6,329kw

（1日の点灯時間が10時間として計算）

熱の発生が少ないため
環境負荷の小さい、発光ダイオードの光

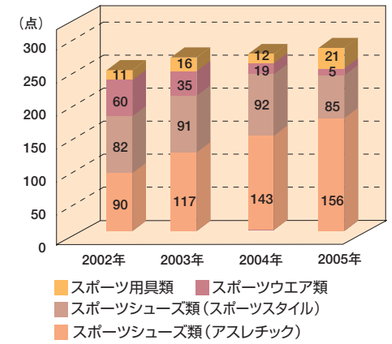
具体的な活動内容と取り組み実績

2005年度は、業務の拡大により、紙使用量や廃棄物量などが増加しました。2006年度は、環境配慮型商品の研究開発のさらなる強化をはじめ、業務の効率化による省エネ、省資源の推進、環境活動の幅、実施エリアの拡大を図ります。

それぞれに環境負荷を低減
環境配慮型商品の研究開発

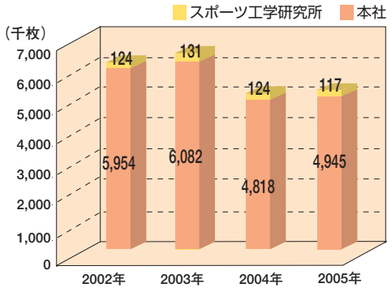
ISO14001認証を取得した2000年から私たちは環境に配慮した商品の研究、開発により力を入れています。環境配慮型商品の継続の累積により、全体に占める割合は年々増加しています。今後も、売り上げにおける比率の増加に一層力を入れて取り組んでいきます。

年度毎の環境配慮型商品の新規開発点数



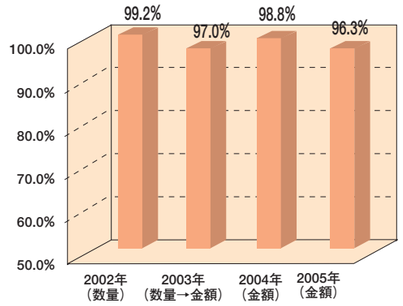
業務効率との両立が課題
紙使用量の削減

テレビ会議システムの利用や、プロジェクターの有効活用を推進し、紙使用量の削減を進めています。2005年度は、前年比2.4%増加しました。業務拡大のため、紙の使用が増加しており、業務効率を考慮した対策が必要となっています。



95%以上を維持
グリーン購入の徹底

ウェブ上のオーダーシステムにおけるグリーン購入リストを活用し、文房具や事務所の消耗品のグリーン購入を進めています。2005年度は、対象商品の金額ベースで96.3%を占めました。また、商品の原材料・資材におけるグリーン調達を進めてまいります。

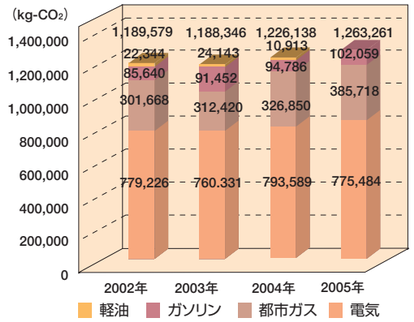


国内4サイトに導入
環境マネジメントシステム

本社、スポーツ工学研究所、アシックスアパレル工業株式会社、アシックス歩人館株式会社、ニシスポーツ株式会社の4事業所でISO14001、2004年度版の認証を取得しています。

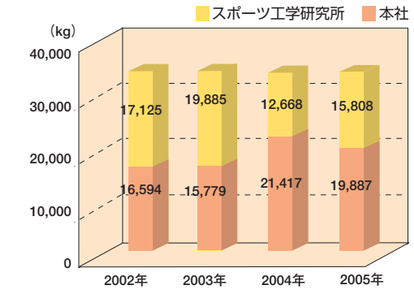
ガスとガソリンが増加
CO_2排出量の削減

2005年度は本社の冷暖房施設を省エネタイプに交換しました。また、クールビズ、ウォームビズ活動や、エコドライブによる社有車のガソリン使用量削減にも努めました。その結果電力と軽油は削減できたものの都市ガスとガソリンの使用量が増加し、全体のCO_2排出量は前年比3.0%増加しました。2006年度はクールビズを昨年より1ヵ月早い6月にスタートするなど、取り組みを進めていきます。



業務拡大により微増
廃棄物の削減

廃棄物の主な内訳は、商品開発の際に使用した材料類などの産業廃棄物と、紙などの事業系一般廃棄物です。2005年度は前年比4.7%増加しました。業務拡大のため増加しており、業務効率を考慮した対策が必要となっています。



環境教育受講者が増加
環境教育研修

従業員等の環境意識向上を目的に、2005年度は右表の教育研修を実施。受講者数は889人でした。当社への実務研修として自治体職員を受け入れたために環境研修受講者が増加しました。

新入社員環境教育	49人
全社員(常駐業者含む)環境一般教育	772人
内部環境監査員研修	25人
中国研修生教育	3人
自治体職員環境研修	10人
緊急事態対応実施訓練	30人

着実な推進を目指す
環境保全活動の沿革

当社の環境保全活動の沿革は、次表のとおりです。2005年度は、「チームマイナス6%」への参加と、ISO14001の2004年版の認証取得がトピックとしてあげられます。

＜社内＞

1991年 2月	JASPO(社団法人 日本スポーツ用品工業協会)包装適正化に対応し、プロジェクト結成
1993年10月	環境保全委員会と専任部門を設置
1995年10月	アシックス環境基本方針制定
1996年 8月	アシックス環境基本方針改定
1997年 8月	「環境ハンドブック」発行
1999年 2月	「環境マニュアル」発行
2000年12月 1日	(JQA-EM1127) R&Dセンター ISO14001認証取得
2002年 3月 8日	(JQA-EM2222) 本社 ISO14001認証取得
2003年 2月21日	(JQA-EM2222に統合) 本社とR&Dセンターの環境組織を統合
2006年 3月 8日	ISO14001の2004年版認証取得

＜社外＞

1997年 6月	グリーン購入ネットワーク入会
1997年 12月	財団法人 ひょうご環境創造協会入会
2001年 4月	神戸地区環境保全協議会入会
2003年12月	ひょうごエコタウン推進会議入会
2005年 6月	チームマイナス6%参加

環境配慮型商品

地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために、企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品づくり・研究開発に努めています。さらにお客様に理解していただきやすい環境配慮型商品の全社基準を検討していく予定です。

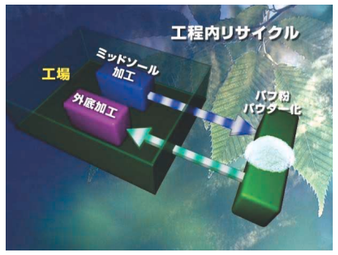
生産工程からクロムを排除
ノンクロムレザーを採用

ウォーキングシューズ「ペダラ」の甲被に、環境負荷を総合的に軽減するためのノンクロムレザーの採用を開始しました。皮のなめしは金属のクロムを使う「クロムなめし」と植物由来の物質による「タンニンなめし」に大別できます。ノンクロムレザーは「タンニンなめし」を施された皮革を指し、金属（クロム）アレルギーの人に対して影響が少なく、素足で履いても肌荒れ等のトラブルの可能性が低いレザーです。また、焼却処分しても問題が少ないと言われています。

ノンクロムレザー採用のペダラ

生産工程から出る削り粉を再利用
E.V.A.スクールスポーツシューズ

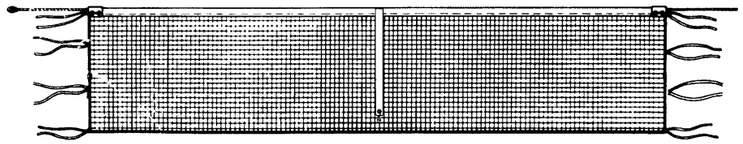
ミッドソールを研磨する際に出るE.V.A.（エチレンビニールアセテート）のバフ粉（削り粉）を、スポーツシューズとしての性能に影響を与えない範囲で外底に添加し、バフ粉の再利用を行っています。これによって、1年間に約3.6tの産業廃棄物の削減につながりました。またパッケージはラミネート加工をしない再生紙のダンボールを使用してリサイクル性を高め、コンパクト設計により配送時の環境負荷を大幅に低減するなど、さまざまな側面から環境負荷の低減を図っています。



工程内リサイクル
E.V.A.の削りカスの大半を同一工場内で再利用

再生樹脂繊維を素材に採用
環境配慮型スポーツネット

当社は各種のスポーツネットを供給しており、環境保全活動としてネットの商品のエコマーク取得およびリサイクル繊維の使用を推進してきました。ネットには、ポリエステル、ナイロン、ビニロン、ポリエチレンなどの素材を用途に応じて使用します。当社はなかでもリサイクル素材の入手が容易で品質も安定している再生ポリエステル繊維の利用拡大を進めており、2005年には23アイテムに採用して約6,6tを使用しました。これは、500mlペットボトル（25g/本）で262,258本に相当します。また、バレーボールやテニスのネットは、リサイクル素材による修理も年間750件を数えました。当社はこれからもこうした商品開発を通じて、環境保全に協力していきたいと考えています。



2005年度は約500校で採用
学校向け環境配慮型商品の普及

1999年に発売を開始した学校向けの環境配慮型商品「エコトレ」は、初年度に2校で採用いただいたのを皮切りに、新商品の積極的な開発、販売・啓発活動により着実に採用校を伸ばしてきました。社会全体の環境意識も高まった2005年には約500校で採用され、学校向け体育ウエア全売り上げの10%強を占めました。

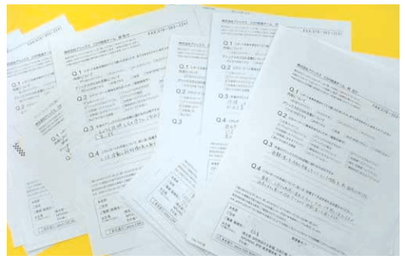
エコトレ「ER」シリーズでは、再生ポリエステルを使用しエコマークの認定を受けています。また、着用後のウエアを回収して新しい繊維製品に再生するシステムも構築。循環型社会の推進に向けて、エコトレ商品の採用拡大と回収率の向上に取り組んでいます。

全社で基準を明確化
環境配慮型商品の全社基準作成へ

2005年度までは、環境配慮型商品の開発点数を目標にしてきました。例えばフットウエア事業部では下記の基準に基づいて開発をしてきました。2006年度は全社の環境配慮型商品の基準を作成し、当該商品の全売上高に占める割合を目標として計画立案していく予定です。

環境適合テーマ	環境適合設計項目
クリーン（環境保全）	①環境負荷の少ない天然素材の使用　（例:ノンクロムレザー）
	②分離・分解し易い設計構造で、廃棄時に環境負荷を低減するもの　（例:SEED）
	③トルエンフリー接着剤を使用し生産された商品　（例:水溶性接着剤）
セービング（省資源・省エネ）	①製造時の材料及びエネルギーロスを低減出来ているもの　（例:ソライトミッドソール）
	②製造工程の簡素化、時間的圧縮のなされているもの　（例:PRE　MOULD発泡）
	③包装資材の軽減、簡素化がなされているもの
	④部品、ユニットの兼用化が考慮されているもの
サスティナブル（長寿命化）	①素材、構造面で製品の長寿命化対策のなされたもの（例:AHAR PLUS ラバー）
	②損耗部位を修理、交換などが可能で情報提供が行われるもの（例:タウンウォーキングシューズのソール交換修理）
リサイクル（再利用・再生材料使用）	①リサイクル素材を使用しているもの ②使用後一部がリサイクルできるもの ③製品⇒回収⇒リサイクル⇒製品 のサイクルを持つ製品、もしくはそうした部品を使用しているもの

「CSRレポート2005」に対するご意見



昨年のCSRレポートに添付されたアンケートに対して、48名の方からお答えをいただきました。

以下、その一部をご紹介させていただきます。

Q.今後のアシックスのCSR活動に望むものは何ですか

株主様から

●興味を持って読み、アシックスへの親しみが強くなりました。「安全にスポーツを楽しむために正しい知識を広める」のコーナーの活動を今後とも一層強化してください。企業（ブランド）イメージへ親しみが増し、製品にも愛着が生まれると思います。

お取引先様から

●「社内品質情報展」どんな不具合が発生し、どのように開発、改良して行ったか等を知りたい。

●会長の理念から、現在のモノ作りの姿勢への一貫性が、このレポートを通じて感じられました。世界に通じるトップメーカーとして、今後もすばらしい商品を世に送り出していただきたいと思います。

企業のCSR担当者様から

●創業者の思いを今後も実現していく、と言う活動をさらに期待しております。

一般の方から

●海外での事業展開に伴い、現地の社会に対してどのような働きかけを行っているのか知りたいと思います。

Q.このレポートの内容について、良い点、改善すべき点があればお聞かせください。

株主様から

●写真、見出し等が多く、読みやすく、理解しやすく、良くできています。

お取引先様から

●CSR活動について、社員の生の声をインタビュー形式等で掲載してみてはどうでしょう。

企業のCSR担当者様から

●最後にレポートの制作に関わった方々のメッセージが載せられている点で、社員の方々の思いが伝わってくるので、非常に良いと思いました。

一般の方から

●それぞれの事業に関わられた人たちの声をもう少し聞いてみたいと感じました。

CSRレポートプロジェクトチーフから

ご意見ありがとうございました。2006年版にすべての方のご意見が反映できたわけではありませんが、今年もぜひご意見をお寄せいただきますようお願い致します。会長の鬼塚は、常に「企業は人だ」と申しており、私たちプロジェクトスタッフもその気持ちを込めて編集に携わりました。

さて、いくつかのご意見にここでお答えさせていただきます。

●「社内品質情報展」は、委託生産先様にも公開しております。担当者へ声をおかけください。

●私ども、社員の声を聞いてみたいとのご要望を多くいただいており、今後の制作時に検討させていただきます。

●プロジェクトスタッフの自筆コメントに関しましても、ご好評をいただきましたので本年も掲載させていただきました。

●海外グループでの活動のご報告は、現在検討を進めております。

2006年版につきましても、是非ともご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

2006年6月

CSR推進チーム

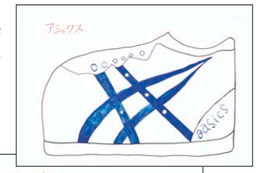
田ノ岡　義純

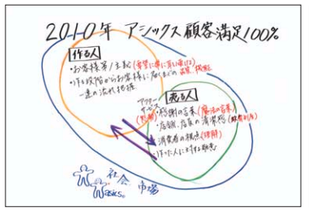
2006年度新入社員CSR研修から

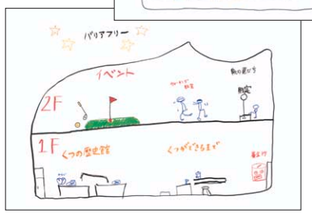
2006年度の新入社員研修では、ワークショップ形式を大幅に取り入れました。CSRに関しても、先輩を交えて与えられた課題を考える形で考察を深めました。

国内のさまざまな企業のCSR活動を知り、2010年のアシックスを考える

新入社員には、当社と各自が選んだ他2社のCSR／環境報告書を読んで、事前に分析レポートを提出することが課せられました。研修当日には、5名ずつ6グループに分かれて、「環境」、「製品安全」、「顧客満足」、「労働・人権（サプライチェーン）」、「労働・人権（従業員）」、「社会貢献」に関して、CSR推進チームのサポートを得ながら、現状の課題点を探り、2010年のあるべき姿について発表を行いました。各グループとも個性に富んだ作業と発表を基に、今後取り組んでいくべきCSR活動について認識を深め、自分たちが創っていくアシックス像を構築しました。







新入社員たちの発表内容

新入社員が考える「アシックスの課題と対応案」

課　題	対　応　案
顧客満足100%が実現できているかについて、継続的な見直しが必要。	お客様第一主義と感謝の気持ちを常に新たにして、「社会」から認められ、「グローバル市場」でも認められるアシックスとなりたい。
社員間のコミュニケーションについての検証を。	パソコンの導入により、メールだけで事を済ませていることはないだろうか。また、必要な情報は、自分の足で確認するつもりで動くことが大切だと考える。
女性社員が働き易い環境づくりをさらに進めていくべき。	時間を気にせず、融通の利く託児所「アシックスキッズスペース」を設けて欲しい。そうすれば、仕事に集中でき、中身が濃くて効率の良い仕事ができるのではないだろうか。
女性の営業職が少ないのでは。	女性の能力活用を積極的に推進し、営業職や管理職の女性の比率を徐々に増やしていきたい。
エターナルリサイクルの実現を目指して、環境配慮型商品の積極的な開発を。	分別廃棄しやすい素材が少ないなどの課題はあるが、地球環境問題の解決に向けて、地球環境にやさしいエターナルリサイクル商品を積極的に開発しトップメーカーとしての使命を果たすことが必要だ。

私たちのおもい

このレポートの制作に携わったスタッフに、今後の当社のCSR活動についてのおもいを自らの決意も込めてまとめてもらいました。

スポーツ工学研究所への見学者が年毎に多くなってきています。特に中学生の修学旅行時期後・不況抵抗の見学後等があげられます。物作りの左のレは至もうすこし多くの子供に体験させたいですへ。

スポーツ工学研究所　井原正信

年に1度のCSR報告書ですが、出来るだけ多くの皆様に、アシックスの活動をご理解頂ければ幸いかと思います。

SA事業部　何丸龍美

CSRレポートの編集に携り、改めて企業の社会的責任の重さを感じています。多くのステークホルダーの方々に是非読んで頂きたいレポートです。

所属：法務部 CSR推進チーム
名前：福田憲二

CSRレポートが、1人でも多くの方の手元に届き、「関わり」の架け橋になれたらぃ…と心から願っています。

お客様相談室
上地美香

CSRレポート、ASICS通信などIR活動を通じて、多くの方にアシックスの取り組みを知っていただければ幸いです。

法務部 法務チーム 月田隆一

CSRレポートの編集作業により、現在の活動状況、そして今後の課題を改めて認識することができました。2007年のCSRレポートで、より充実した活動を皆様に報告できるよう、業務に励んでいきたいです。

法務部 CSR推進チーム 井上聖子

2005年度、我がアシックスの一年間の記録です。ここから学ぶべきものは学び、改善すべきものは改善して、今後更に一層前進しましょう。

経営企画チーム
竹内英之

良い会社だと思っています。多くの方から、そう思って戴きたい。そのように努める意を新たにしました。

マーケティング統括部
中須賀幹彦

最近、仕事をしていくうえで、「継続性」ということの重要さを痛感しています。このレポートも、今回で2年目です。今後も「より良いモノ」を作っていけるよう、努力していきたいと思います。

経理部　野中路輝

アシックス・アルウムの地域への貸出を通じて社会貢献活動も続けたいと思います。

人事総務部　谷野英彦

企業の活動範囲にあわせ世界規模で利害関係者とのかかわりを持たないといけないと痛感しました。CSRレポートの編集に携り、発想の転換の必要性を改めて感じました。

所属：法務部CSR推進チーム
名前：臼井良治

これからも従業員にとって働きやすい職場とは？という課題に真摯に取り組んでいきたいと思います。

人事法務部
和田敏彦

ここに第2号を発行できることは大変すばらしいですが、報告書だけでなく、活動自体のより一層の充実を期待します。

元報チーム
福松忠

エクイップメント事業部の小さな領域でも環境配慮型商品の開発に努めていることをアピールできました。又お客様に当社を理解していただく大切さを再認識しました。

エクイップメント事業部
中川盛雄

NEXT STAGEへ

アシックスは、グローバル企業として事業拡大を進めるにあたり、このCSRレポートでご報告したさまざまな課題を解決しなければなりません。その主軸を、「人」と「環境」とし、私たちの住む「地球」というすばらしい生態系の維持と持続を、人類の使命、企業の責務と考えてまいります。今年度のレポートには、NPO/NGOの方々や2006年度の新入社員の意見などを掲載し、CSR活動の道しるべの一つとしました。

「人」に対して

私たちは、女性社員やハンディキャップを持った従業員に対しても、働きやすい制度や環境を整えておりますが、全て満足のいく態勢が整えられているわけではありません。

現在、社内に「女性活性化委員会」や社内不正や倫理逸脱に対する通報窓口である「スピークアップライン」、労働組合と連携した「セクシャルハラスメント委員会」などを立ち上げ、問題解決にあたる活動を活発化させています。

サプライチェーンにおける「人」に関しては、この数年、人権、労働関係の国際的NGOの活動の活発化や彼らの労働者への啓発に応えるために、私たちのCSRにおけるサプライチェーンの生産サイドに関わるステークホルダーに対する責任と認識し、NGOとの協働、透明性を持った対処に努力しております。

「環境」に対して

人々の健康、スポーツにとって、地球の生態系の健全性は欠くことの出来ない要素です。メーカーとして、そのものつくりの中で環境に全く負荷をかけないことは不可能です。しかしながら、最大限の努力や研究を進めることで、環境負荷を減らすことは可能です。利便性や快適性を追うあまりに環境への配慮を忘れることのないように、私たちは事業の中でさまざまなチェックを重ね、サプライチェーンの生産から販売に至る行程の中での環境保全に対してさらに努力してまいります。

ものつくりを始める際に、環境配慮の要素を企画の中に盛り込むこと。これは素材だけではなく、生産や物流においての省エネルギー要素も含みます。このような、積み重ねをステークホルダーの方々と適切に行っていくことで、企業としての社会的責任を果たす努力を続けてまいります。

株式会社アシックス
常務取締役管理統括部長
（ＣＳＲ担当）
爲定涼次

編集方針

本報告書は、株式会社アシックスをよりよくご理解いただくことを目的に編集いたしました。
編集にあたっては、社員によるCSRレポートプロジェクトメンバーが、ステークホルダーの皆様からいただいたご要望や、私たちが「知っていただきたいこと、お伝えしたいこと」を掲載することを方針として進めました。

本報告書の対象範囲

対象期間：2005年度（2005年4月1日～2006年3月31日）
対象組織：原則として株式会社アシックスに関する取り組みの報告です。
ただし、一部でグループとしての取り組みを報告しております。
発 行 日：2006年6月

当レポートに関するお問い合わせ先

株式会社アシックス　法務部CSR推進チーム
〒650-8555　神戸市中央区港島中町7-1-1
Tel. 078-303-1244　Fax. 078-303-2211

株式会社アシックス　CSR推進チーム　行

ASICS CSR Report **2006**

FAX:078ー303ー2211

株式会社アシックス「CSRレポート」をご覧いただきましてありがとうございました。
お読みいただいた「CSRレポート」への皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。
今後の当社のCSR活動と来年度のCSRレポート作成の参考にさせていただきます。

Q.1 レポート全般を読まれてどう感じられましたか。あてはまるものにレ点を入れてください。

内容について

□ 大変わかりやすい　□ わかりやすい　□ 少しわかりにくい　□ わかりにくい

アシックスのCSR活動について

□ かなり評価できる　□ 評価できる　□ 普通　□ あまり評価できない　□ 評価できない

Q.2 どのコーナーに興味を持ちましたか。（複数回答可）

□ トップコミットメント　□ 創業者から　□「神戸市キャリア教育人材バンク」への協力
□ モノづくりの系譜　□ 六甲山クリーンナップトレッキングの実施
□ 商品を通じてのコミュニケーション　□ 商品・サービスを通じての価値創造
□ スポーツ安全の普及活動　□ お客様とのコミュニケーション活動　□ 海外での活動
□ 経営健全性の維持　□ 社会貢献活動　□ 働きやすい職場づくり　□ 川上へのCSR展開
□ 地球環境を守る企業姿勢と活動　□ 具体的な活動内容と取り組み実績　□ 環境配慮型商品
□「CSRレポート2005」に対するご意見　□ 2006年度新入社員CSR研修から
□ スタッフのおもい　□ NEXT STAGEへ

Q.3 今後のアシックスのCSR活動に望むものは何ですか。

Q.4 このレポートの内容について、良い点、改善すべき点があればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ、以下の項目へのご記入もお願い致します。
お書きいただいた個人情報などは、CSRレポート作成の参考資料と、希望された方への来年度のCSRレポートの送付用としてのみ使用いたします.
使用目的を変える場合は事前にご確認をさせていただきます。
なお、次回のCSRレポートをご希望される場合には、以下の明細にご記入いただきその下の依頼欄にレ点をお入れ下さい。

お名前　：　　**郵便番号:**〒　　ー

ご住所　：

ご職業（勤務先）:

お立場
（○で囲んでください）
:株主様・当社商品のお客様、お取引先様、金融・投資家、企業のCSR担当者、NPO/NGO関係者、研究・教育関係者、学生、報道関係者、外部調査機関関係者、その他（　　）

□ **来年度の「ASICS CSR REPORT」の送付を依頼します。**